GOS-E 構造化面接・判定シート

Glasgow Outcome Scale-Extended｜独自日本語訳・再構成（2026.11／余白拡大版）

ID／氏名：_____ 評価日：_____ 評価者：_____

対象：主に外傷性脳損傷後の成人の転帰。急性期の意識レベル検査ではない。本人への面接を基本とし、必要時は日常をよく知る成人家族・スタッフ等の情報を統合。

受傷日：_____ 受傷後期間：_____ 情報源／面接方法：_____
評価範囲：全外傷の影響（GOSE-All）／脳損傷の影響（GOSE-TBI）［いずれか明記］

実施・判定の共通ルール

受傷前と現在（概ね直近1週間）の生活を比較する。「していない」と「できない」を区別し、制限の理由を追加質問する。各質問の意味を保てば、言葉は相手に合わせてよい。原則として全領域を確認し、回答の矛盾を解消する。

受傷前と同程度の問題は最終判定から除外。新規または悪化した制限のうち、最も低い区分を最終GOS-Eとする。合計・平均は計算しない。不明な回答を0点や正常で補完しない。情報不足時は追加確認してから確定（実務上の運用）。

Q1　意識・意思疎通　／　死亡は記録から確認

簡単な指示に従う、または言葉を発することができるか：はい／いいえ。明らかに意思疎通できる場合はQ2へ。指示に従えないことだけで植物状態としない。失語・重度認知障害、目的的行動を確認する。

1＝死亡。2＝植物状態（VS：覚醒はあるが意識の徴候がない）。専門的評価を参照する。最小意識状態（MCS）は3＝Lower SD。VS／MCSでは残りの面接を省略する。

状態・根拠／専門評価：

GOS-E 構造化面接・判定シート

Glasgow Outcome Scale-Extended｜独自日本語訳・再構成（2026.11／余白拡大版）

ID／氏名：_____ 評価日：_____ 評価者：_____

Q2　家庭内の自立　／　Q2a・b・c

a：日常生活に、他者の援助が毎日不可欠か：はい／いいえ。食事・着替え・安全確保等を確認。身体介助のほか、不可欠な見守り・促しも含む。単なる付き添い、毎日必須でない家事、全体の自立と矛盾する限定的な援助だけで重度障害としない。

b：頻回の援助、または大半の時間そばにいる人が必要か。8時間、自分の必要と安全を保てない→3（Lower SD）。8時間は可能だが24時間は保てない→4（Upper SD）。24時間可能→この領域で3・4を付けず、Q3以降へ。実際に独居させる試験はしない。

c：受傷前から同程度の援助が不可欠だったか：はい／いいえ。以前より依存が増した場合は「いいえ」（変化あり）。aが「いいえ」ならcも「いいえ」としてQ3へ。

判定候補：____ 受傷前との差・具体例：

Q3　買い物　／　Q4　地域内の移動

Q3a：援助なしで買い物ができるか：はい／いいえ。少量の品物を店で選び、金銭を扱い、適切に行動できるか。大量購入や重い荷物運びは不要。オンライン購入のみでは代替しない。Q3b：受傷前は自立していたか：はい／いいえ。

Q4a：援助なしで地域内を移動できるか：はい／いいえ。徒歩だけではなく交通手段の利用を確認。公共交通に限定せず、タクシーを手配し行き先を伝え、安全・適切に行動できればよい。Q4b：受傷前は自立していたか：はい／いいえ。

受傷前は可能で、現在Q3またはQ4が不可能→4（Upper SD）。現在可能なら受傷前も可能として次へ。交通費・店舗不在だけで能力低下としない。

Q3候補：____ Q4候補：____ 具体例：

補足：情報提供者は原則18歳以上で、少なくとも週1回は本人と対面するなど日常を知る人。入院中であることだけでは依存としない。GOSE-TBIでは脳損傷と明確に無関係な制限を除外し、原因を分けられない場合は含める。固定の姿勢・歩行距離・試行回数を課す検査ではない。

GOS-E 構造化面接・判定シート

Glasgow Outcome Scale-Extended｜独自日本語訳・再構成（2026.11／余白拡大版）

ID／氏名：_____ 評価日：_____ 評価者：_____

Q5　仕事・学業・主要な介護役割

a：受傷前と同じ能力で仕事等ができるか：はい／いいえ。b：制限がある場合、能力低下はあるが競争的な仕事／学業は可能→6（Upper MD）。就労／学業不能、保護的・非競争的仕事のみ可能→5（Lower MD）。時間、技能・責任、監督・配慮の変更を確認する。

c：受傷前に仕事・求職・学業・主要な介護役割があったか：はい／いいえ。「いいえ」（退職等）ならa・bを判定に用いない。受傷前と同能力ならbを省略。失職・求人不足だけで制限とせず、将来の復職予定は現在の能力に置き換えない。

判定候補：____ 受傷前との差・具体例：

Q6　社会・余暇活動

a：受傷前の定期的な社会・余暇活動に戻れるか：はい／いいえ。b：制限の程度は、少し減少（以前の半分以上の頻度）→7（Lower GR）、大きく減少（半分未満）→6（Upper MD）、ほぼ／全く参加できない→5（Lower MD）。以前と現在の回数・理由を確認。

c：受傷前に定期的な活動があったか：はい／いいえ。なければa・bを省略。屋外活動がほぼなかった場合は読書・庭仕事等の屋内活動も確認。季節・費用等のみの変化は除外。活動が戻っていればbを省略する。

以前：____回／____ 現在：____回／____ 候補：____ 理由：

GOS-E 構造化面接・判定シート

Glasgow Outcome Scale-Extended｜独自日本語訳・再構成（2026.11／余白拡大版）

ID／氏名：_____ 評価日：_____ 評価者：_____

Q7　家族・友人関係

a：受傷後の変化が、家族・友人関係の継続的な問題を起こしているか：はい／いいえ。いら立ち等の症状自体でなく、関係への影響を確認。b：時々（週1回未満、持続的な緊張なし）→7。頻回（週1回以上、緊張はあるが許容される）→6。絶えず・日常的（関係破綻またはその危機、耐え難い問題）→5。著しい引きこもり・孤立も考慮する。

c：受傷前も同様だったか：はい／いいえ。明らかな悪化なら「いいえ」として判定に含める。aが「いいえ」ならbを省略。本人が影響を認識しにくいときは家族等に確認する。

判定候補：____ 受傷前との差・具体例：

Q8　通常生活への復帰・その他の症状

a：受傷に関連し、日常生活に影響する問題が現在あるか：はい／いいえ。頭痛、めまい、疲労、光・音への過敏、動作や思考の遅さ、記憶・集中の問題等を確認。生活に影響する新規／悪化した症状あり→7（Lower GR）。症状があっても生活への影響がない場合は自動的に7としない。

b：同様の問題が受傷前からあったか：はい／いいえ。以前より強い／頻回なら「いいえ」。他領域も含め新たな制限・生活に影響する症状がなければ8（Upper GR）。aが「いいえ」ならbも「いいえ」と扱う。

判定候補：____ 受傷前との差・具体例：

最終判定　／　各候補のうち最も低い区分（合計なし）

1 死亡 ／ 2 VS ／ 3 重度障害・下位 ／ 4 重度障害・上位 ／ 5 中等度障害・下位
6 中等度障害・上位 ／ 7 回復良好・下位 ／ 8 回復良好・上位

最終GOS-E：____／8 決定領域：_____ 除外した受傷前の問題：_____

判定根拠・未確認事項：_____

原資料：Wilson L, et al. J Neurotrauma. 2021;38:2435–2446. doi:10.1089/neu.2020.7527
© Lindsay Wilson et al., 2021. CC BY 4.0（https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/）。本文の質問・判定条件を日本語訳し、記入欄を追加・再配置。原著者の承認・翻訳版の妥当性検証は受けていません。
原文・詳細な例外：https://pmc.ncbi.nlm.nih.gov/articles/PMC8390784/